

長里千香子：第9回国際藻類学会議 北海道プレツアー開催記

本北海道プレツアーは、日本最大級の広さを誇る釧路湿原、天然記念物マリモで有名な阿寒湖、そして日本最東端で亜寒帯に位置する北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所でのフィールド体験を目玉として企画をいたしました。本大会前の7月28日から31日に計画された3泊4日のツアーは最小催行人数15名ということでしたが、最終的には6名（中国2名、韓国1名、スウェーデン2名、ドイツ1名）でのツアー実施ということになりました。そのため、ツアー前日の夜まで予算と計画案とのならみ合いが続きま

した。初日は釧路空港に15時集合ということでしたが、釧路空港にたどり着けない参加者が出てきてしまいました。そのため、全行程を同行する予定の北海道大学の四ツ倉典滋さんが急遽、千歳空港まで迎えに行くこととなりました。一抹の不安を抱えながら、他の参加者とともハイヤーに乗り、釧路湿原内にある釧路市湿原展望台、達古武湖を廻ることになりました。濃霧に見舞われることの多い夏の釧路ですが、初日の天候は良好でしたので、湿原内の散策もとても好評でした。夕方に釧路市内のビジネスホテルに到着し、そこでようやく参加者全員が顔を合わせる事となりました。

2日目は厚岸臨海実験所に向い、実験所内の見学をさせていただきました。その後、今年竣工したばかりの「みさご丸」に乗船しました。30分ほどで大黒島へ到着し、思い思いに海藻採集を楽しみました。午後は、海藻の標本作製をし、3時には同実験所を出発しました。2日目の夜から阿寒湖温泉に宿泊する予定となっておりましたので、道すがら霧多布岬へ立ち寄り、見頃は過ぎてしまったアヤマの鑑賞をしました。

3日目は参加者全員が楽しみにしていたマリモ群生地見学が

行われました。釧路市教育委員会の若菜勇さんに、阿寒湖畔エコミュージアムセンターで阿寒の自然とマリモについてレクチャーをしていただきました。その後、普段立ち入ることのできない特別保護区域へ向い、湖畔に打ち上げられているマリモの観察を行いました。午後若菜さんの案内のもと、雌阿寒岳の西麓に位置するオンネトー湯の滝へ向いました。緩やかなアップダウンのある遊歩道を30分ほど歩き、天然記念物マンガン酸化物生成地を観察しました。ここは滝を流れる温泉水に溶けているマンガンイオンが微細藻類とバクテリアの働きで二酸化マンガンを生成しているところなのですが、深海以外でマンガン鉱床生成過程を観察できるのは世界でもただ1カ所であると言われています。天候にも恵まれ、阿寒湖畔の雄大な自然を満喫しました。夕方になり観光ガイドの方もようやくツアーに参加しました。希望者を阿寒湖アイヌコタンで行われるアイヌ古式舞踊鑑賞会に案内をし、3日目は終了いたしました。

最終日は、釧路市丹頂鶴自然公園に行き、昼には解散をしました。

初日からアクシデントに見舞われ、どうなることかと心配でしたが、多くの方のご協力のおかげで無事に全行程を終了し、参加者の皆様を本大会へお送りすることができました。特に、本ツアーの計画から実施にあたり多大なる御尽力をいただきました北海道大学の四ツ倉典滋さん、釧路市教育委員会の若菜勇さんに深く感謝申し上げます。また、計画実施にあたり御助言をいただきました国立環境研究所の河地正伸さん、施設と実習船利用を快く承諾していただいた北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所の皆様に心より感謝申し上げます。

(北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター)



北海道ツアー参加者とスタッフ